

# サークルの星!

キラッと光るサークルや  
活躍する学生をクローズアップ!



音がぴたっと  
合ったときは  
ゾクゾク!

今年初めにチトセピアホールで行われた定期演奏会の様子。



## Swing Boat Jazz Orchestra

### スウィングしなけりゃ…で54年 長い歴史を誇る軽音楽サークル

長崎大学が誇る老舗のビッグジャズバンド。長大祭はもちろん、定期演奏会や各地でのライブでおなじみです。「『シング・シング・シング』や『イン・ザ・ムード』『A列車で行こう』など古き良き時代の名曲から最近のナンバーまでレパートリーは幅広いのですが、大人数なので音を合わせるのが大変です。管楽器とリズム隊は別々に練習し、最後に合同練習します。ぴたっと合った時の迫力は演奏しながらでも興奮しますよ」と部長の古賀俊さん(工学部3年)。時には意見が合わないことも?「チームワークの乱れは音に出ます。コンサートマスターを決めておいて、客観的な意見を一番尊重するようにしています」。

ところで、長大にはたくさんの音楽サークルがあり、新入部員も取り合いになりそうですね。

「うちの強みは扱える楽器の多さです。管楽器はもちろんですが、ベース、ギター、ドラムなど、入って触れてみてから自分の楽器を選べます。初心者にお勧めですよ。それと、演奏中にソロパートがあること。目立ちたがりにもぴったりです」。



子どもに楽器体験をさせる「おもやいライブ」も教育学部の創楽堂で開催しました。

## 全学女子サッカー部

### 見るよりもプレーする喜び チームワーク抜群の 赤い旋風

V・ファーレン長崎がJ1に昇格し、以前にも増してサッカー熱が盛り上がる長崎。そんな中、長崎大学の女子サッカーチームも、昨年長崎県2部リーグで優勝し、1部リーグに昇格しました。リーグ内には経験豊かな高校生チームもありますが、大学生のフィジカルの強さを生かし、粘り強いディフェンスを武器に勝ち上がっていきましました。キャプテンの中村瑠莉さん(経済学部3年)のお話です。「プロチームのサポーターもいいですが、観客席で見るとグラウンドに降りてプレーするのが、景色もサッカーもまるで違います。簡単そうに見えるプレーもやってみると難し



見るのもいいですが、  
自分でプレーするのは  
もっと楽しいですよー!

が体感できますし、広いコートも動き回れば狭く感じます。楽しいですよ!」。チームには大学からサッカーを始めたビギナーも多く、個々の技術力の差は多少ありますが、チー

ムワークは抜群なのだそうです。「サッカーの練習以外でも一緒に遊びに行くことが多いですね。先日もみんなで旅行に行きました」。

現在の目標は4月の九州な

でしこサッカー大会県予選突破。メンバーもマネージャーも募集中で、もちろん初心者でもOKだそうです。

## 里親里子応援隊

### 目指すのは里親と 里子の健やかな関係性 制度についても学びながら対応

もともと別のボランティアサークルの活動の一つだったものを、独立させ固定メンバーで立ち上げたのがこのサークル。新しい家族になっ

た里親と里子の人たちを支援するボランティア活動です。「児童養護施設のマリア園には『にじのはし』というサークルが開かれています。ここ



最近は自主企画にも力を入れています。施設を飛び出し、アウトドアでのピザと焼き芋作りも行いました。

では里親の子育て相談が行われるのですが、その間に子どもたちと一緒に遊ぶのが主な活動です。また、長崎子ども・女性・障害者支援センターにおいても定期的に託児の活動を行っています。デリケートな対応が必要なので、里親・里子の制度について研修などでしっかり学んで活動するようにしています。子どもたちに顔をおぼえても

らえ、近い関係性を築くこともできました」と語るのは部長の松元優美さん(経済学部3年)。当初は教育学部中心かと思いきや、実際に動き出してみると、ほぼ全学部の学生が加わったのだそうです。今後は更に活動の幅を広げていきたいとのこと。必要とされる所で必要とされる形の支援を継続するフットワークの良さが魅力です。



里親・里子の  
制度について  
学んでいます

養護施設の職員や専門家を招いての研修や啓発活動なども行っています。